

〔書籍〕

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
福原信義	第2章 診断と治療	金澤一郎監修、川原仁志編集	誰にでもわかる神経筋疾患119番	難病と在宅医療	東京	2007	17-19
Tanaka S, Mahmut Y, Mogushi K, Aihara A, Kudo A, Nakamura N, Ito K, Imoto I, Inazawa J, Miki Y, Mizushima H, Tanaka H, Arii S.	Omics analysis to predict the aggressive recurrence of hepatocellular carcinoma after curative hepatectomy.	Japan Cancer Association	Proc. Japanese Cancer Assoc.	JCA	Japan	2007	225
Ohashi W, Mogushi K, Mizushima H, Tanaka H.	Efficient Clinical Trials for anticancer drugs by using the genomic Information	Japan Cancer Association	Proc. Japanese Cancer Assoc.	JCA	Japan	2007	371
Tanaka H, Arii S, Sugihara K, Miki Y, Inazawa J, Mizushima H.	TMDU Clinical Omics Database - Integrating OMICS data and Clinical Information.	Japan Cancer Association	Proc. Japanese Cancer Assoc.	JCA	Japan	2007	403
Mogushi K, Mizushima H, Ohashi W, Tanaka H.	PathwayMap: pathway-based evaluation and visualization software for microarray analysis	Japan Cancer Association	Proc. Japanese Cancer Assoc.	JCA	Japan	2007	518
Mahmut Y, Mizushima H, Ohta T, Tanaka S, Arii S, Tanaka H.	The significance of up-regulated Aurora B Kinase and alternative variant forms in Hepatocellular Carcinoma.	Japan Cancer Association	Proc. Japanese Cancer Assoc.	JCA	Japan	2007	557
Ohashi W, Mizushima H, Tanaka H.	Proposal of Efficient Clinical Trials by using the Genomic Information.	HISA Ltd. Australia	MEDINFO 2007	IOS Press	Netherlands	2007	1086-1100

〔書籍〕

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Miyaguchi K., Mogushi K., Inamura T., Mizushima H., Takahashi K., Uzawa N., Amagasa T., Tanaka H.	Whole Genome Analysis of Copy Number Variations in Oral Cancer Using High-Density SNP Microarrays.	Bourque G	The 18th International Conference on Genome Informatics (GIW2007) Poster Book		Singapore	2007	40-41
Nemoto S., Miyaguchi K., Mogushi K., Mahmut Y., Mizushima H., Tanaka S., Arii S., Tanaka H.	Copy Number Analysis of Hepatocellular Carcinoma Using High-Resolution SNP Oligonucleotide Array.	Asai K	Proceedings of the 2007 Annual Conference of the Japanese Society for Bioinformatics		Japan	2007	042-1-2
水島 洋	癌における遺伝子異常と個人化医療	山本重夫監修	バイオ解析・診断技術のテーラーメイド医療への応用	シーエムシー出版	日本	2006	145-155
水島 洋	日米の治験の比較(ゲノム治験推進)	町淳二監修	国民医療への道	日本医療企画	日本	2006	
水島 洋	パソコンのやさしい使い方	水島 洋、 廣島彰彦	パソコンのやさしい使い方	羊土社	東京	2005	1
宮坂道夫	医療倫理の方法としての物語論	江口重幸, 斉藤清二, 野村直樹編	『ナラティブと医療』	金剛出版	東京	2006	p.82-92
宮坂道夫	〈事例〉と〈範例〉	栗原隆, 浜口哲	大学における共通知のありか	東北大学出版会	仙台市	2005	全286ページ、 担当部分128-136ページ
山内豊明	5章 循環器系体のすみずみまで血液を送るしくみ	編集/林正健二	イメージでわかる解剖生理学	メディカ出版	大阪府	2006年4月1日	58-69

〔書籍〕

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
山内豊明			ベイツ診察法ポケットガイド 第2版 Pocket Guide to Physical Examination and History Taking Fourth Edition (訳書)	メディカルサイエンスインターナショナル	東京都	2006年4月1日	1-374 (1冊)
著/サンドラ・スミス、ドナ・デュエル・バーバラ・マーティン 監訳/川原礼子・山内豊明・山田智恵里			看護技術目でみる事典	西村書店	東京都	2006年5月5日	1-639 (1冊)
著/ティルダ・シャロフ 訳/荒木文枝		監修/山内豊明	ICU看護師 生と死がわかる時	西村書店	東京都	2006年8月4日	1-417 (1冊)
山内豊明	第2章「看護必要度」を評価するための項目 I. アセスメントにおける「看護必要度」の考え方	監修/岩澤和子・筒井孝子	看護必要度 第2版 看護サービスの新たな評価基準	日本看護協会出版会	東京都	2006年8月31日	21-35
山内豊明・筒井孝子・看護必要度アセスメント項目評価基準検討委員会(植原美恵・高田穂積・吉田秀美・井出志賀子・宇津木もと子・関矢カズ子・坪井ちえみ・外谷憲子・飯田琴枝・熊谷富子・畠中智代・岸川恵子・白石和子・鈴木厚子・米山万里枝・安藤恵美子・野尻恵子・野出典子・古瀬敬子・梅野直美・小川圭子・斉藤恭子・渡辺美奈)	第2章「看護必要度」を評価するための項目 II. 「看護必要度」のチェック項目と記入の手引き	監修/岩澤和子・筒井孝子	看護必要度 第2版 看護サービスの新たな評価基準	日本看護協会出版会	東京都	2006年8月31日	36-77

〔書籍〕

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
山内豊明・筒井孝子・看護必要度アセスメント項目評価基準検討委員会(植原美恵・高田穂積・吉田秀美・井出志賀子・宇津木もと子・関矢カズ子・坪井ちえみ・外谷憲子・飯田琴枝・熊谷富子・畠中智代・岸川恵子・白石和子・鈴木厚子・米山万里枝・安藤恵美子・野尻恵子・野出典子・古瀬敬子・梅野直美・小川圭子・斉藤恭子・渡辺美奈)	第2章「看護必要度」を評価するための項目 III.例題	監修/岩澤和子・筒井孝子	看護必要度 第2版 看護サービスの新たな評価基準	日本看護協会出版会	東京都	2006年8月31日	78-96
山内豊明	第4章 看護管理における「看護必要度」の活用 II.「重症度・看護必要度に係わる評価票」の評価項目とその評価	監修/岩澤和子・筒井孝子	看護必要度 第2版 看護サービスの新たな評価基準	日本看護協会出版会	東京都	2006年8月31日	172-186
山内豊明	なぜアセスメント技法が必要か,また活用方法は	編集/川上千英子	フォーカスチャータリング・記録による看護の質評価	メディカ出版	大阪府	2006年9月10日	6月15日
監訳/山内豊明	監訳者前書き	編集/Lawrence M.Tierney, Jr.,Mark C.Henders on	聞く技術 答えは患者の中にある(上) THE PATIENT HISITOR Y:Evidence-Based Approach	日経BP社	東京都	2006年9月11日	iv

〔書籍〕

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
監訳/山内豊明	監訳者前書き	編集 /Lawrence M.Tierney, Jr.,Mark C.Henders on	聞く技術 答えは患 者の中に ある(下) THE PATIEN T HISITOR Y:Eviden ce-Based Approach	日経BP社	東京都	2006年9 月11日	iv
山内豊明	第2章全身のみかた I 視診	編集/日野 原重明	フィジカル アセスマ ントナース に必要な診 断の知識 と技術 第4 版	医学書院	東京都	2006年12 月1日	16-19
山内豊明	第2章全身のみかた II 触診	編集/日野 原重明	フィジカル アセスマ ントナース に必要な診 断の知識 と技術 第4 版	医学書院	東京都	2006年12 月1日	20-22
山内豊明	第2章全身のみかた III 打診	編集/日野 原重明	フィジカル アセスマ ントナース に必要な診 断の知識 と技術 第4 版	医学書院	東京都	2006年12 月1日	23-24
山内豊明	第2章全身のみかた IV 聴診	編集/日野 原重明	フィジカル アセスマ ントナース に必要な診 断の知識 と技術 第4 版	医学書院	東京都	2006年12 月1日	25-26
山内豊明	第2章全身のみかた V バイタルサインのみかた	編集/日野 原重明	フィジカル アセスマ ントナース に必要な診 断の知識 と技術 第4 版	医学書院	東京都	2006年12 月1日	27-35
山内豊明	第6章神経系のみかた I 神経系のアセスメントを進めていく上での基本方針	編集/日野 原重明	フィジカル アセスマ ントナース に必要な診 断の知識 と技術 第4 版	医学書院	東京都	2006年12 月1日	138

〔書籍〕

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
山内豊明	第6章神経系のみかた II 神経系の系統的アセスメント	編集/日野原重明	フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術 第4版	医学書院	東京都	2006年12月1日	139-175
山内豊明	第8章高齢者のみかた I 加齢による変化	編集/日野原重明	フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術 第4版	医学書院	東京都	2006年12月1日	212-214
山内豊明	第8章高齢者のみかた II 病歴聴取のための問診のポイント	編集/日野原重明	フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術 第4版	医学書院	東京都	2006年12月1日	215-222
山内豊明	第8章高齢者のみかた III 機能評価	編集/日野原重明	フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術 第4版	医学書院	東京都	2006年12月1日	223-226
山内豊明	第8章高齢者のみかた IV 身体各系統のみかた	編集/日野原重明	フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術 第4版	医学書院	東京都	2006年12月1日	227-241
Momoe Konagaya, Yumiko Kawaguchi, Sawako Kawamura	IDENTIFYING CARE ELEMENTS FOR PALS PROVIDED BY PERSONAL ASSISTANTS, International Symposium on ALS/MND in YOKOHAMA,		Amyotrophic Lateral Sclerosis, "[abstract] The 17th International Symposium on ALS/MND, VOI7	Amyotrophic Lateral Sclerosis, "[abstract] The 18th International	London	2006	79
川口有美子	「在宅ケアをデザインする-2 政治に訴えるさまざまな方法」		訪問看護と介護	医学書院	東京	2007	Vol.12-1:46-47
川口有美子	「障害者自立支援法をめぐるコンフリクト」		訪問看護と介護	医学書院	東京	2006	Vol11-5:504-505

平成17年度～平成19年度 研究成果の刊行に関する一覧表

〔書籍〕

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
川口有美子	「医療的ケアの拡大と近未来の在宅医療」		福祉労働111	現代書館	東京	2006	20-27
川口有美子	「ALSヘルパー養成講座「進化する介護」専門職と非専門職の協同作業のために」		訪問看護と介護	医学書院	東京	2006	Vol.11-7:694-695
森朋子、湯浅龍彦	筋萎縮性側索硬化症患者の心理・人工呼吸器装着の意思決定	医療60(10)		国立医療学会	東京	2006	637-643

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
宮下光令、秋山美紀、落合亮太、萩原章子、中島孝、福原俊一、大生定義	神経内科的疾患患者の在宅介護者に対する「個別化された重みつきQOL尺度」SEIQoL-DWの測定	厚生指標	55(1)	9-14	2008
中島 孝	QOLと緩和ケアの奪還	現代思想	Vol36:2	148-173	2008
中島 孝、伊藤博明	緩和ケアとは本来何なのか？生きるためのケアにむけて	難病と在宅ケア	Vol13(10)	9-13	2008
中島 孝	神経難病と音楽療法 総論	神経内科	67(3)	228-235	2007
榛沢和彦、林純一、布施一郎、相澤義房、田辺直仁、中島 孝、伊藤正一、鈴木幸雄	新潟県中越大地震被災地住民に対する深部静脈血栓症(DVT)/肺塞栓症(PE)の診断、治療ガイドラインについて	Therapeutic Research	28(6)	1076-1078	2007
中島 孝	緩和ケアは看取りの医療ではない-最後まで続くQOLの向上、生きる挑戦	月刊公明	7月号	34-41	2007
中島 孝	QOL評価の新しい挑戦 療養者の物語によるSEIQoL-DWの試み	日本難病看護学会誌	11巻3号	181-191	2007
中島 孝、川上英孝、伊藤博明	ALSへのNPPVの導入	Journal of Clinical Rehabilitation	Vol.16No.3	243-250	2007
坂井健二、中島 孝、福原信義	ミオクローヌスと運動失調を主症状としナイアシン投与が有効であったアルコール性ペラグラ脳症が疑われた1例	脳と神経	58巻2号	141-144	2006
三木淳司、中島 孝	機能画像検査による視路の診かた 近赤外線スペクトロスコーピー	眼科	48(10)	1539-1546	2006
伊藤博明、中島 孝	在宅神経難病患者のQOL	神経内科	65(6)	542-548	2006
坂井健二、中島 孝、福原信義	抗凝固治療開始後にmicroembolic signalの一過性増加をみとめた原発性抗リン脂質抗体症候群の一例	脳と神経	58(5)	439-42	2006
中島 孝、伊藤博明	ライゾゾーム病治療に真の夜明けが訪れた	難病と在宅ケア	12(8)	37-38	2006
樋口真也、中島 孝	ALS患者さんの呼吸療法の誤解を解くために	難病と在宅ケア	12(7)	7-11	2006
中島 孝	QOL向上とは、難病のQOL評価と緩和ケア	脳と神経	58(8)	661-669	2006
中島 孝	ALSにおける呼吸療法-総論	神経内科	64(4)	330-386	2006
Nakajima T	Individual ALS care in the Japanese 'nanbyo'care model: comparison with palliative care approaches in achieving best quality of life	Amyotrophic Lateral Sclerosis	(Suppl 1)7	45-47	2006
中島 孝	神経難病における遺伝子検査とインフォームドコンセント	神経治療学	22巻	751-756	2005
中島 孝	ALSのQOL向上のための緩和ケアに向けて	医療	59巻7号	370-375	2005
中島 孝	難病ケアと問題点-QOLの向上とは	臨床神経学	45巻11号	994-996	2005

平成17年度～平成19年度 研究成果の刊行に関する一覧表

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
中島 孝	現地での取り組み、特集「広域災害医療 －新潟県中越地震を経験して」	医療	59巻4号	213-216	2005
T.Nakajima, H.Kamei, H.Kawakami, T.Hayashi, and H.Saeki	Adiagnostic algorithm of de Novo Parkinson disease differentiated from Parkinsonism-plus syndromes using discrimination analysis of cerebralperfusion SPECT	NeuroRex	2	537	2005
秋山 智	難病患者からみた医療・看護～若年性 パーキンソン病を持つ人々の世界	臨床老年看護	15巻1号	印刷中	2008
秋山 智、岡本 裕子	若年性パーキンソン病患者のQOLに関 する研究～SEIQoL-DWによる評価～	日本難病看護 学会誌	12巻2号	印刷中	2008
秋山 智	パーキンソン病友の会福岡県支部若年 部会の活動～SEIQoL-DWによる評価～	日本難病看護 学会誌	12巻1号	73	2007
秋山 智	若年性パーキンソン病患者の就業経験の 総体に関する研究	日本難病看護 学会誌	12巻1号	74	2007
秋山 智、岡本 裕子	若年性パーキンソン病患者のQOLに関 する研究～SEIQoL-DWによる評価～	日本難病看護 学会誌	12巻1号	83	2007
秋山 智	ある若年性パーキンソン病療養者の職業 経験に関する研究	日本難病看護 学会誌	11巻1号	58	2006
秋山 智	パーキンソン病友の会福岡県支部若年 部会の試み	日本難病看護 学会誌	11巻1号	60	2006
本田由香利、福 井真理子、岩尾 祐里、姫野深 雪、中浦豪太、 秋山智	ALS患者にとってのホームページ開設の 意義とその特徴	日本難病看護 学会誌	10巻1号	44	2005
吉田哲、中村政 子、秋山智	身体障害者療護施設におけるALS入所 者のケア	日本難病看護 学会誌	10巻1号	57	2005
橋本明実、渡辺 重子、田代明 子、松本妙子、 神城佳誉子、友 瀬仁美、秋山智	筋萎縮性側索硬化症患者の在宅療養に 向けた退院計画の検討	日本難病看護 学会誌	10巻1号	74	2005
秋山 智	神経難病看護 ～その狭間と盲点～	日本難病看護 学会誌	10巻2号	93-96	2005
姫野深雪、秋山 智、中浦豪太、 岩原孝子、友瀬 仁美	Rett症候群患児の親の障害受容過程に おける思いの特徴	日本難病看護 学会誌	10巻2号	106-116	2005
中島孝、伊藤博 明	緩和ケアとは本来何なのか？－生きるた めのケアにむけて－	難病と在宅ケ ア	13(10)	9-13	2008
伊藤博明	事前指示書のあり方	難病と在宅ケ ア	12(2)	47	2006
伊藤博明	パーキンソン病講座：くすりと療養上の注 意	難病と在宅ケ ア	12(4)	45-48	2006
伊藤博明、中島 孝	特定疾患のライゾーム病治療に真の夜 明けが訪れた	難病と在宅ケ ア	12(8)	37-38	2006
伊藤博明、中島 孝	在宅神経難病患者のQOL	神経内科	65(6)	542-548	2006

平成17年度～平成19年度 研究成果の刊行に関する一覧表

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
Ding H, Koinuma N, Stevenson M, Ito M, Monma Y	The cost-effectiveness of risedronate treatment in Japanese women with osteoporosis	J Bone Miner Metab	26(1)	34-41	2008
川島孝一郎、伊 藤道哉	身体が存在形式または、意思と状況との 関係性の違いに基づく生命維持治療に おける差し控えと中止の解釈	生命倫理	Vol. 18	198-206	2007
金子さゆり、濃沼 信夫、伊藤道哉	医師の勤務状況とエラー・ニアミス要因の 検討	病院管理	44(3)	29-38	2007
伊藤道哉	看護支援システム導入に向けて看護部が 覚悟すべき留意点	月刊看護きらく	Vol.16, No.12	21-24	2007
伊藤道哉	在宅医療の推進に向けて	クレコンレポ ート	29	1-5	2007
金子さゆり、濃沼 信夫、伊藤道哉	病棟勤務看護師の勤務状況とエラー・ニ アミスとの関係	看護管理学会 誌			(2007年12 月に掲載予 定)
金子さゆり、濃沼 信夫、伊藤道哉	病棟看護師の超過勤務および休憩時間 と患者安全との関係	医療の質・安 全学会誌			(2007年12 月に掲載予 定)
金子さゆり、濃沼 信夫、伊藤道 哉、中村利仁	医師の勤務状況とエラー・ニアミス要因の 検討-地方の中核病院の勤務医の場合-	病院管理	Vol.44、No.3		2007
金子さゆり、濃沼 信夫、伊藤道哉	医師の勤務実態と心理的ストレスとの関 係	日本疲労学会 誌	Vol.3、No.1	77	2007
金子さゆり、濃沼 信夫、伊藤道 哉、尾形倫明	看護必要度と看護度に関する研究	日本医療マネ ジメント学会雑 誌	Vol.8、No.1	232	2007
Kaneko S, Koinuma N, Ito M, Ogata T, and Monma Y	Relation between job-related stress and job satisfaction among nurses in acute care settings (No.1)	8th International Regulation Conference presentations , Abstract CD			2007
Monma Y, Kaneko S, Koinuma N, Ito M, and Ogata T	Relation between Job-related stress and job satisfaction among nurses in acute care settings (no.3)	8th International Regulation Conference presentations , Abstract CD			2007
尾形倫明、伊藤 道哉、濃沼信夫	がん患者調査による経済的負担感に関 する質的研究	東北公衆衛生 学会誌	56号	18	2007
門馬靖武、濃沼 信夫、金子さゆり、 大黒一司、尾形 倫明、三澤仁平、 伊藤道哉	食品摂取品目数と骨粗鬆症関連骨折に 関する研究	病院管理	44巻Suppl	190	2007
金子さゆり、濃沼 信夫、伊藤道哉、 三澤仁平、丁漢 昇	急性期病棟における看護業務およびマン パワー量と患者安全との関係	病院管理	44巻Suppl	116	2007

平成17年度～平成19年度 研究成果の刊行に関する一覧表

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
濃沼信夫, 伊藤道哉, 尾形倫明	日本における癌の推定国民医療費	日本癌学会総会記事	66回	270-271	2007
伊藤道哉, 濃沼信夫	終末期における医療供給体制の課題	保健医療科学	Vol.55 No.3	225-229	2006
伊藤道哉	神経難病領域における事前指示 ～アンケート調査を中心に～	日本難病医療ネットワーク研究会機関誌	Vol.2, No.2	1-8	2005
伊藤道哉, 濃沼信夫, 川島孝一郎	ALS(筋萎縮性側索硬化症)等在宅重症患者の医療・介護サービスへの評価	病院管理	Vol.42, Supplement	123	2005
田村やよひ, 伊藤道哉, 梶原和歌, 他	保健・医療・福祉に求められる連携	第9回日本看護サミットふじのくに静岡2004 実施報告書		95-121	2005
Takashi I, Fumie T, Yuko K, Kodaira S, Etsuko O	The role of medical institutions specializing in ALS	Amyotrophic Lateral Sclerosis			2007
今井尚志, 春名由一郎	「難病中の難病」のある人への自立生活と就業の一体的支援	職リハネットワーク	No.61	29-33	2007
今井尚志, 大隅悦子	特集“症例にみる難病患者の在宅ケア”オーバービュー	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION	Vol.16 No.8	700-704	2007
椿井富美恵, 今井尚志	ALS専門チーム医療を目指して	難病と在宅ケア	Vol.13 No.4	55-56	2007
上田耕太郎, 栗本育三郎, 臼井邦人, 青柳宏昭, 大久保亜美, 益満知世, 今井尚志	神経難病患者のためのネットワーク対応在宅医療支援システムの開発	日本福祉工学会	9(1)	14-19	2007
多田羅勝義, 石川悠加, 今井尚志, 原仁志, 神野進, 西間三馨, 福永秀敏	国立病院機構における長期人工呼吸患者の実態	日本呼吸ケアリハビリテーション学会誌	17(1)	57-62	2007
今井尚志, 大隅悦子, 志澤聡一郎, 木村 格	人工呼吸療法の告知	神経内科	vol.65 No6	556-559	2006
木村格, 今井尚志, 久永欣哉, 菊地昭夫, 松本有史	特集“神経内科の医療・介護—現状と課題— 神経難病地域医療ネットワーク	神経内科	vol.65 No6	549-555	2006
IMAI T, TSUBAI F, SHIZAWA S, KUEIHAEA K, OAUMI E, MATSUO M	COMMUNICATION METHODS FOR ALS PATIENTS USING A TELEVISED MOBILE PHONE SYSTEM	Amyotrophic Lateral Sclerosis	Vol.7	Supplement, p76	2006

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
Takahashi T, Aoki M, Imai T, Yoshioka M, Konno H, Higano S, Onodera Y, Saito H, Kimura I, Itoyama Y	A case of dysferlinopathy presenting choreic movement.	Mov Disord	21	1513-1515	2006
鳩飼英嗣、臼井邦人、栗本育三郎、今井尚志	在宅・遠隔医療のためのテレグジスタンスシステムI-PETの設計と試作—ネットワーク対応対面ディスプレイ系と障害者対応入力系—	Journal of The Japan Society for Welfare Engineering	8巻1号	23-28	2006
今井尚志、大隅悦子	ALS患者のスピリチュアルケア—専門医の立場からの一考察—	緩和ケア	vol.15 No5	422-425	2005
田中祐介、栗本育三郎、土屋勇治、今井尚志	神経難病のための低価格USBカメラを用いたネットワーク対応意思伝達装置の開発	Journal of The Japan Society for Welfare Engineering	7巻2号	23-28	2005
今井尚志、大隅悦子	ALS患者のスピリチュアルケア—専門医の立場からの一考察—	緩和ケア	15(5)	422-425	2005
今井尚志	ALSの正しい理解と予後を見据えての自己決定～TV放映のその後～	難病と在宅ケア	vol.10 No11	9-12	2005
今井尚志ほか	人工呼吸器装着ALS患者さんの療養先拡大に向けて	難病と在宅ケア	9(10)	24-26	2004
今井尚志、大隅悦子	神経難病(特にALS)の緩和ケア 1. 神経難病、特に筋萎縮性側索硬化症(ALS)とは	非悪性疾患の緩和ケアターミナルケア11月増刊号	第14巻11月増刊号	98-102	2004
今井尚志、大隅悦子	神経難病(特にALS)の緩和ケア 2. 神経難病、特に筋萎縮性側索硬化症(ALS)と告知	非悪性疾患の緩和ケアターミナルケア11月増刊号	第14巻11月増刊号	103-105	2004
Ushikubo M, Saito Y	Educational needs to overcome difficulties that nurses experience in caring for individuals with ALS/MND	Amyotrophic Lateral Sclerosis	5	108	2007
松田千春、小倉朗子、友松幸子、飯田苗恵、牛込三和子	筋萎縮性側索硬化症(ALS)療養者の人工呼吸器装着意思決定過程と支援のあり方に関する検討	日本難病看護学会誌	11巻3号	209-218	2007
高久順子、飯田苗恵、佐々木馨子、櫛谷節子、牛込三和子	保健所保健師によるALS療養者への診断確定期からの支援	日本難病看護学会誌	12巻2号	172-177	2007
本田彰子、牛込三和子、川村佐和子、小倉朗子	在宅神経難病療養者への経済的影響—医療福祉制度変更による	難病と在宅ケア	13巻1号	59-62	2007

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
飯田苗恵、牛久保美津子、生込三和子、佐々木馨子、津金沢理恵子	二次医療圏中核病院における退院調整に要する日数に影響する要因	プライマリ・ケア	30巻4号	337-343	2007
長沢つるよ、岡戸有子、谷口亮一、小倉朗子、小西かおる、中山優季、板垣ゆみ、松田千春、大竹しのぶ、柏村和子、石井昌子、兼山綾子、川村佐和子、生込三和子	ALS在宅長期人工呼吸療法療養者の健康問題に関する検討	日本難病看護学会誌	12巻1号	82	2007
松下祥子、小西かおる、小倉朗子、生込三和子、川村佐和子	神経系難病における地域支援体制に関する評価	民族衛生	72(2)	47-58	2006
矢島正栄、川尻洋美、友松幸子、依田裕子、生込三和子	看護職が行う難病相談支援事業における疾患群別相談内容の分析	日本難病看護学会誌	10(3)	198-211	2006
新井明子、生込三和子、飯田苗恵、佐々木馨子	在宅人工呼吸器装着ALS療養者の介護者休養目的短期入院の利用効果	日本難病看護学会誌	10(3)	224-230	2006
小西かおる、小倉朗子、川村佐和子、生込三和子、近藤紀子	神経系難病における地域ケアシステムおよび療養環境の評価方法の構築に関する研究	日本難病看護学会誌	10(3)	231-243	2006
原田朋代、中迫貴美子、生込三和子	M県重症難病患者入院施設確保事業における難病医療相談員の活動の分析	日本難病看護学会誌	11(1)	51	2006
小倉朗子、本田彰子、近藤紀子、乙坂佳代、重信好恵、会田久子、小川一枝、小西かおる、川村佐和子、生込三和子	訪問看護における神経・筋難病看護の専門特化に関する検討	日本難病看護学会誌	11(1)	52	2006
福島昌子、小林直樹、羽鳥秋子、生込三和子	筋萎縮性側索硬化症(ALS)療養者の各症状・障害時期における訪問看護の特性	日本難病看護学会誌	11(1)	53	2006

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
谷口亮一,若林研司,本田理,角田徹,小倉朗子,田中一枝,小森哲夫,石井昌子,長沢つるよ,中山優希,兼山綾子,板垣ゆみ,生込三和子,川村佐和子	在宅神経難病療養者における「訪問指導事業(訪問診療)」の有用性に関する検討	日本難病看護学会誌	11(1)	55	2006
牛久保美津子,生込三和子,佐々木馨子,飯田苗恵,羽鳥秋子,小林直樹	在宅難病看護の専門教育プログラムに関する検討	日本難病看護学会誌	11(1)	65	2006
川尻洋美,斉藤由美子,依田裕子,矢島正栄,生込三和子	難病相談支援センターにおける患者会相談員との合同相談技術共有の実際	日本難病看護学会誌	11(1)	68	2006
牛久保結紀,高久順子,大谷忠広,生込三和子	ALS療養者の訪問看護開始一年間の支援の分析	日本難病看護学会誌	11(1)	89	2006
大谷忠広,櫛谷節子,牛久保結紀,高久順子,生込三和子	訪問看護ステーションのALS療養者支援における他職種との連携	日本難病看護学会誌	11(1)	90	2006
櫛谷節子,高久順子,大谷忠広,生込三和子	在宅人工呼吸療法を選択したALS療養者の訪問看護における支援チームとの連携	日本難病看護学会誌	11(1)	91	2006
生込三和子	専門性を発揮する訪問看護ステーション(3)－難病療養者の訪問看護－	保健の科学	47巻1号	34-39	2005
飯田苗恵,友松幸子,佐々木馨子,生込三和子	特定機能病院における神経難病医療専門員の外来患者フォローアップ	日本難病看護学会誌	9巻3号	171-178	2005
新井明子,生込三和子,高久順子,細井さゆり,飯田苗恵,佐々木馨子,友松幸子	在宅人工呼吸療法を実施している筋萎縮性側索硬化症療養者の介護者休養目的の初回入院における看護支援	日本難病看護学会誌	9巻3号	194-199	2005
生込三和子,酒井美絵子	Diagnosis procedure combinationの展開と看護	神経治療学	22巻5号	607-614	2005
高久順子,飯田苗恵,生込三和子	ALS療養者支援における在宅療養支援計画策定・評価事業を活用した保健所保健師の総合調整機能	日本難病看護学会誌	10巻1号	62	2005
鈴木美雪,竹内昌代,小此木久美子,依田裕子,矢島正栄,生込三和子	神経系難病療養者の在宅サービス利用実態からみた保健所保健師の支援のあり方に関する検討	日本難病看護学会誌	10巻1号	63	2005

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
友松幸子、依田裕子、生込三和子	重症難病患者入院施設確保事業における長期療養施設確保支援の実態	日本難病看護学会誌	10巻1号	65	2005
佐々木馨子、牛込三和子、須川美枝子、石川夢、高久順子	クローン病で重篤合併症を併発している療養者の在宅療養支援における特定機能病院看護師の支援機能	日本難病看護学会誌	10巻1号	79	2005
大生定義	アウトカムを見直す 2	日内会誌	96	1521-1524	2007
Miki Onishi Akiyama, Mami Kayama, Soichi Takamura, Yuri Kawano, Sadayoshi Ohbu, Shunichi Fukuhara	A study of the burden of caring for patients with amyotrophic lateral sclerosis (MND) in Japan	British Journal of Neuroscience Nursing	2	38-43	2006
Yoshimi Suzukamo, Sadayoshi Ohbu, Tomoyoshi Kondo, Junko Kohmoto, Shunichi Fukuhara	Psychological adjustment has a greater effect on health-related quality of life than on severity of disease in Parkinson's disease	Mov Disord	21	761-766	2006
大生定義	リハにおけるアウトカム評価尺度 Norris Scale, ALSFRS-R, ALSAQ-40	Journal of Clinical rehabilitation	15	364-371	2006
Ohbu S, Nakajima T, Akiyama M, Narita Y, Kuuhara S	Individualized Quality-of-life measurement for patients with neurological intracable disease in Japan	amyotrophic lateral sclerosis		78	2006
大生定義	PD患者のQOL	日本臨床	62	1696-1699	2004
荻野美恵子	看取りのチームワークはどう構築し、どう活動するか	難病と在宅ケア	Vol.13, No.10	24-27	2008
Umehara F, Nose H, Saito M, Fukuda M, Ogino M, Toyota T, Yuhi T, Arimura K, Osame M	Abnormalities of spinal magnetic resonance images implicate clinical variability in human T-cell lymphotropic virus type I-associated myelopathy	J Neurovirol	13(3)	260-7	2007
荻野美恵子	ALS患者の介護・支援システム	Clinical Neuroscience	Vol.25 No.11	in press	2007
荻野美恵子	運動ニューロン疾患	Clinical Neuroscience	Vol.25 No.11	in press	2007
荻野美恵子	ALS診療におけるNIPPVの長所と問題点	神経内科	Vol.64, No.4	402-406	2006

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
荻野美恵子	多発筋炎・皮膚筋炎	Clinical Neuroscience	Vol.24 No.1	83-85	2006
Mieko Ogino, Yutaka Ogino, Sachiko Irie, Naomi Kanazawa, Toyokazu Saito, Fumihiko Sakai	Long-term prognosis of Guillain-Barre syndrome	J Neuroimmunology	178 suppl 1	222	2006
荻野美恵子、荻野裕、坂井文彦	ALSにおけるNIPPV在宅導入	日本在宅医学会雑誌	第8巻、第1号	109	2006
中西浩司、荻野美恵子、坂井文彦	「神経難病のコミュニケーション障害に対する援助手段」リストの作成	神経治療学	Vol.23, No.3	300	2006
荻野美恵子、荻野裕、坂井文彦	神経難病(特にALS)における事前指示書のあり方	臨床神経学	Vol 46, No12		2006
今関亜由美、中西浩司、中丸紀久美、紅林希、竹内寛人、荻野美恵子、坂井文彦	ALS患者における上肢装具の現状と問題点	臨床神経学	Vol 46, No12		2006
上出直人、荻野美恵子、平賀よしみ、春日美保、藤橋紀行、安藤文子、山崎岳之、隅田祥子、宮城しほ、坂井文彦	ALSにおけるSNIPの有用性	臨床神経学	Vol 46, No12		2006
小林美奈子、荻野美恵子、斉藤豊和	ALS患者における主観的QOLの比較	臨床神経学	Vol 46, No12		2006
氏家幸子、荻野裕、荻野美恵子、織茂智之、坂井文彦	遺伝性パーキンソン病相模原家系(PARK8)の中樞神経病理所見と心臓交感神経の関係	臨床神経学	Vol 46, No12		2006
飯ヶ谷美峰、荻野美恵子、由井進太郎、荻野裕、坂井文彦、的場元弘、大西秀樹	ALS終末期における緩和ケアについて	臨床神経学	Vol 46, No12		2006
Imazaki A, Ogino M, Ogino Y, kamide N, Asai N, Sakai F	The present status and problems with upper extremity orthosis in patients with Amyotrophic Lateral Sclerosis	ALS and motor neuron disorders	7(Suppl 1)	74-75	2006

[雑誌]

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
Kamide N, Ogino M, Ogino Y, Fukuda M, Sumida S, Hiraga Y, Sakai F	Usefulness of Sniff Nasal Inspiratory Pressure (SNIP) for Japanese Patients with ALS	ALS and motor neuron disorders	7(Suppl 1)	83	2006
荻野美恵子	侵襲的人工呼吸療法を選択しないALS患者さんの緩和ケア	難病と在宅ケア	Vol.12,No9	23-26	2006
Shimoda T, Koizumi W, Tanabe S, Higuchi K, Sasaki T, Nakayama N, Azuma M, Saigenji K, Katou T, <u>Ogino M</u>	Small-cell carcinoma of the esophagus associated with a paraneoplastic neurological syndrome: a case report documenting a complete response	Jpn J Clin Oncol	36	109-12	2006
荻野美恵子	多発筋炎・皮膚筋炎	Clinical Neuroscience	Vol.24 No.1	83-85	2006
Murakami T, Hayashi YK, Noguchi S, Ogawa M, Nonaka I, Tanabe Y, <u>Ogino M</u> , Takada F, Eriguchi M, Kotooka N, Campbell KP, Osawa M, Nishino I.	Fukutin gene mutations cause dilated cardiomyopathy with minimal muscle weakness	Ann Neurol	Nov;60(5)	597-602	2006
荻野美恵子、荻野裕、坂井文彦	ALSにおけるNIPPV在宅導	日本在宅医学会雑誌	第8巻、第1号	109	2006
荻野美恵子、荻野裕、坂井文彦	「緊急時の対処方法カード」(事前指示書)導入後の評価	臨床神経学	Vol 45, No12		2005
古澤英明、荻野美恵子、坂井文彦	身体障害者療護施設における筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の受け入れの問題点	臨床神経学	Vol 45, No12		2005
小川果林、福田倫也、荻野美恵子、坂井文彦	神経難病理解にむけて医学部教育における取り組み	臨床神経学	Vol 45, No12		2005
小林美奈子、荻野美恵子、斉藤豊和	ALS患者における主観的QOL要因の検討	臨床神経学	Vol 45, No12		2005
荻野裕、荻野美恵子、古澤英明、坂井文彦	PERK8(相模原地区遺伝性パーキンソン病)の臨床的特徴と長期経過	臨床神経学	Vol 45, No12		2005

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
Ogino M, Ogino Y, Kobayashi N,Sakai F	The issues on the induction of invasive mechanical ventilation in Japanese ALS patients	ALS and motor neuron disorders	6(Suppl 1)	157	2005
荻野美恵子、荻 野裕、坂井文 彦、下田拓也、 小泉和二郎	食道小細胞癌に合併し、良好な経過を とったparaneoplastic neuropathyの一 例	末梢神経	Vol. 16 No.2	130-133	2005
荻野美恵子	ALSにおける倫理的・社会的問題	神経治療学	Vol.22 No.6	741-745	2005
矢野貴久子、荻 野美恵子、荻野 裕、飯ヶ谷美峰、 坂井文彦	ALSにおけるカフマシーン、パーカッショ ネアの有用性	神経治療学	Vol.22 No3	401	2005
荻野美恵子	ALS患者の呼吸器選択・呼吸器離脱の 意思決定	日本在宅医学 会雑誌	Vol.7 No.2	23-27	2005
荻野美恵子	ALS医療と事前指示書	医療	第59巻 第7	389-393	2005
上出直人、前田 真治、柴喜崇、荻 野美恵子	進行性核上性麻痺患者に対する部分体 重免荷トレッドミル歩行トレーニングを含 んだ短期集中練習・単一症例研究	理学療法学	第32巻 第3 号	130-134	2005
荻野美恵子	アルコールと筋疾患	メディチーナ	Vol.42No.9	1571-1573	2005
荻野美恵子	DPCの展開と免疫性神経疾患	神経治療学	Vol.22 No.5	591-595	2005
松下祥子、小西 かおる、小倉朗 子、牛込三和 子、川村佐和子	神経系難病における地域支援体制に関 する評価	民族衛生	72	47-58	2006
大木幸子、吉田 真理子、小川一 枝、小倉朗子	介護保健時代において保健所に求めら れる難病療養者への療養支援機能	日本難病看護 学会誌	vol.10	218-223	2006
小倉朗子、本田 彰子、近藤紀 子、乙坂佳代、 重信好恵、会田 久子、小川一 枝、小西かおる、 川村佐和子、牛 込三和子	訪問看護における、神経・筋難病看護の 専門特化に関する検討	日本難病看護 学会誌	11	52	2006
谷口亮一、若林 研司、本田理、 角田徹、小倉朗 子、田中一枝、 小森哲夫、石井 昌子、長沢つる よ、中山優季、兼 山綾子、板垣ゆ み、牛込三和 子、川村佐和子	在宅神経難病療養者における「訪問指導 事業(訪問診療)」の有用性に関する検討	日本難病看護 学会誌	11	55	2006
小西かおる、小 倉朗子、川村佐 和子、牛込三和 子、近藤紀子	神経難病における、地域ケアシステムお よび療養環境の評価方法の構築に関す る研究 - 地域ケアアセスメントの指標に 関する検討 -	日本難病看護 学会誌	11	56	2006

平成17年度～平成19年度 研究成果の刊行に関する一覧表

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
大島真紀、松下祥子、村田加奈子、小倉朗子、中山優季	病院における筋萎縮性側索硬化症療養者と看護師のコミュニケーション手段の獲得とその取り組みに関する研究	日本難病看護学会誌	11	62	2006
村田加奈子、奥山典子、小倉朗子、松下祥子、中山優季、石井昌子、川村佐和子	在宅人工呼吸器使用難病患者の訪問看護利用に関する検討	日本難病看護学会誌	11	72	2006
中山優季、小倉朗子、村田加奈子、川村佐和子	ALS在宅人工呼吸療養者の外出を可能とする要因に関する検討	日本難病看護学会誌	11	85	2006
松下祥子、村田加奈子、木下正信、小倉朗子、中山優季、我孫子妙子、広瀬和彦、川村佐和子	在宅重症難病者の通院時の安全確保に関する研究	日本難病看護学会誌	11	86	2006
岡戸有子、小川一枝、川崎芳子、白木富幸、小倉朗子	ALS療養者における在宅療養継続の困難要因に関する検討	日本難病看護学会誌	9	200-204	2005
松下祥子、川村佐和子、我孫子妙子、小倉朗子他	多系統萎縮症療養者の療養経過と看護支援に関する研究	日本難病看護学会誌	10	47	2005
谷口亮一、木本明恵、岡戸有子、永山一江、長沢つるよ、小倉朗子、今岡節子、小森哲夫、谷口珠美	「家族以外の者」による「たんの吸引」に関わる環境整備と課題	日本難病看護学会誌	10	68	2005
水野優季、小倉朗子	諸外国における看護支援に関する情報人工呼吸器装着ALS療養者に対する気道ケア	日本難病看護学会誌	9	212-213	2005
小倉朗子、小西かおる	ALS療養支援を巡る課題	難病と在宅ケア	11	7-9	2005
小倉朗子、小西かおる、長沢つるよ、石井昌子、水野優季、大竹しのぶ、兼山綾子	全体討論と「看護サービス」の展望	難病と在宅ケア	11	25-27	2005
川村佐和子、長沢つるよ、小西かおる、小倉朗子他	進行性筋ジストロフィーをもつ仲間とボランティアとの安全な社会生活活動 - 身体理解と健康管理、安全な介助と活動 -	日本難病看護学会			2005
牛久保美津子、小倉朗子、小西かおる	訪問看護師がとらえた神経難病療養者の苦悩・葛藤場面と心理的支援	日本難病看護学会誌	vol.9	188-193	2005
岡戸有子、小川一枝、川崎芳子、白木富幸、小倉朗子	ALS療養者における在宅療養継続の困難要因に関する検討	日本難病看護学会誌	vol.9	200-204	2005

〔雑誌〕

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
水野優季、小倉朗子、猫田泰敏、川村佐和子	ALS在宅人工呼吸療養者の外出時における健康問題発生状況およびその要因に関する検討	東京保健科学学会誌	6	281-291	2004
Satoko Miyatake, Satomi Okahashi, Mikiya Suzuki, Manabu Otomo, Kana Yatabe, Katsuhisa Ogata, Shigeru Fuse and Mitsuru Kawai	The diagnostic duration of amyotrophic lateral sclerosis	V Dubowitz Neuromuscular Disorders	Vol.16 Supplement 1,	S82	2006
川島孝一郎	総論「在宅療養支援診療所が実現する在宅ケア」	月刊総合ケア	第17巻 第1号	14-19	2007
川島孝一郎	在宅における重症管理と急性期病院との連携	治療	Vol.87 No.5	1733-1740	2005
Mizuno Y, Abe T, Hasegawa K, Kuno S, Kondo T, Yamamoto M, Nakashima M, Kanazawa I and the STRONG (Study of Ropinirole add-ON therapy in L-dopa treated patients Group) Study Group	Ropinirole is Highly Effective on Motor Function when Used as an Adjunct to L-Dopa in Parkinson's Disease				(in press)
Mizuno Y, Abe T, Hasegawa K, Kuno S, Kondo T, Yamamoto M, Nakashima M, Kanazawa I, and the STRONG Study Group	Ropinirole is Effective on Motor Function When Used as an Adjunct to Levodopa in Parkinson's Disease: STRONG Study.	Movement Disorders	22(13)	1860-1865	2007